

# 放送作家情報

2003/1/30

Vol. 19

発行／社団法人 日本放送作家協会

編集／広報・出版委員会

〒 106-0032 東京都港区六本木 6-2-5 ハラビル

☎ 03-3401-5996 FAX 03-3408-7411 E-mail to: [info@hosakkyo.jp](mailto:info@hosakkyo.jp)

3冊 2号

## 放 作 協 臨 時 総 会 の お 知 ら せ

平成 15 年 2 月 25 日 午後 2 時より、東京六本木の日本放送作家協会事務局において、「平成 14 年度臨時総会」を開催致します。臨時総会と言っても緊急の案件があるからではなく、文化庁に報告する予算を会員の皆さんにご承認して戴き、改めて 5 月に総会を開くことになっています。従って臨時総会は皆様のご意見やご質問にお答え出来る数少ないきっかけとなりますので是非、御参加ください。日頃、「放作協って何もしてないじゃないか」「放作協なんてメリットがない」と思っているあなた、好奇心半分、覗いて見ませんか？ 今、放作協は大きく変わりつつあります。たんなる親睦団体から放送文化活動を積極的に推し進め、発言する放作協に変貌しつつあるのです。その活動の一端をご紹介します。

○「放送を考える委員会」ではこれまでに個人情報保護法案をはじめとするいわゆるマスコミ規制三法案に対する緊急反対アピールを行い、さらに現在は「メディアリテラシー」（メディアを読み解く能力）に取り組み、放送と視聴者をつなぐパイプ役を目指して準備を進めています。そのための勉強会が 2 月 14 日に行われますが、詳しくは本誌 2 ページを御覧ください。

○「創作テレビドラマ脚本懸賞公募」は 27 回を数え、「創作ラジオドラマ脚本懸賞公募」は 31 回目が目下、審査中です。いずれも日本におけるシナリオ公募の権威ある老舗として定着し、このコンクールから一線で活躍する多くの脚本家が育っています。

○「企画事業委員会」では「九州諫早図書館シナリオ講座」が平成 14 年度に開催され、好評だった左記イベントを平成 15 年度も引き続き実施いたします。

○平成 15 年 2 月 15 日から 6 週に渡って足立区生涯学習センターにおいて、「放送とシナリオの世界」と題する講座を開催致します。（詳細は本誌 3 ページ）

○上記の件も含めて、講師希望者のリストをデータベースとして取り入れ、講師派遣事業、講座開催事業の本格化に取り組んでいます。

○上記の目的達成のため、全国の自治体、教育委員会、生涯学習機関のホームページ上に放作協のホームページアドレスをリンクさせ情報網を構築し、事業をアピールします。また印刷物などでも講師派遣事業をアピールしていきます。

○又、協会執行部は次のような活動を行っています。

★将来的な「東京国際テレビ祭」への布石として、「東京国際映画祭」の実行委員として参加しています。

★日本民間放送連盟賞ラジオ部門、中国・四国地区部門賞の審査員を派遣しています。

★NHK及び民放ラジオ局の有志、脚本家、放送関係者等で組織されている「ラジオの会」を後援し、同会が横浜放送ライブラリーで主催する「ラジオドラマウィーク」を支援しています。（詳細は本誌 P 3）

★平成 14 年度に始まったNHKドラマ部と日本放送作家協会との交流会を本年度も開催して行きます。私たちは「活動を知られていない」ことは同時に「何もしてない」という印象に繋がると考えています。是非、臨時総会及びその後のおそらく日本一ささやかな懇親会にお顔を見せてください。そして、上記事

業活動に参加してください。お待ちしております。

(常務理事 南川泰三)

☞視聴率至上主義の現状に疑問を持つ会員諸君

そして

☞視聴率万能主義者の会員諸君も

バレンタインデーのこの日♥2月14日(金曜日)午後2時

放作協・六本木教室へ集まれ!

日本放送作家協会 「放送を考える委員会」主催  
メディアのゴジラ講座 第一回 「番組のからくり」  
～メディアリテラシー・ニュースは現実を伝えているか～

日本放送作家協会・放送を考える委員会は、バレンタインデーの2月14日金曜日午後2時から、六本木教室にて上記の特別講座を開きます。

ドラマ、バラエティー、ドキュメンタリー、アニメ、情報番組など、そのジャンルにかかわらず、番組や報道の客観性、公正さ、暴力表現の影響などが議論になっている現在、放送作家としてメディアの在り方を具体的に問い直し、自分がつくっている番組、自分が携わっている番組について、もう一度客観的に外から見てみよう、考えてみようというのが、この特別講座の目的です。

メディアリテラシーはアメリカで使われている言葉で、【メディアを批判的に理解していく学習】という意味です。イギリスでは【メディア教育】と呼ばれています。

長い間私たちはニュースは現実を伝えるもの、真実を伝えるものと思ひこみ、また思ひこまされてきました。しかしニュースは必ずしも現実や真実を伝えるものではなく、取材先をどこにするかコメントのどの部分を使うかで、その現実や真実は180度変わってしまいます。最近の一番分かりやすい例は<北朝鮮の放送>でしょうか。人によっては<アメリカ発の情報>というかもしれませんが……。サブタイトルの～メディアリテラシー・ニュースは現実を伝えているか～はこういった意味で付けました。

講師は菅谷明子氏。菅谷氏はコロンビア大学院で国際関係論とメディアジャーナリズムを研究し修士課程を修了されました。現在、東京大学大学院情報学環「MELLプロジェクト<メディア表現、学びとリテラシープロジェクト>」のチーフプロデューサーをつとめ、「メディアリテラシー ～世界の現場から～」の著書(岩波新書刊)を持つ新進気鋭のジャーナリストでもあります。

この日2月14日金曜日は、講演のあと集まった作家仲間での“おしゃべりサロン”も企画しています。番組について日頃から考えていること、怒っていること、悩んでいること、どんな事でも結構です。仲間達とこころゆくまで、おしゃべりしてみませんか。

とにかく、あなたが会費を納め、あなたが所属している、社団法人日本放送作家協会がどんな場所にありどんなところなのか、ちょうど良い機会です。ぜひ一度見に来て下さい!そして、“職場”以外の友人をみつけようじゃありませんか。

最後に メディアのゴジラ講座「番組のからくり」は入場料1000円です。

放送を考える委員会委員長 安達充

いよいよ始動!

新規企画事業

## 「足立区 放送とシナリオを学ぶ講座」

日本放送作家協会では、全国の教育委員会や生涯学習振興機関に向けて、生涯学習教育の一環として、一般市民を対象にした「放送やシナリオについて学ぶ講座」を提案してきました。昨年は長崎県諫早市において図書館ラジオドラマ講座が実施され好評でした。そのノウハウをさらに発展させ、ひとつのスタンダード・パッケージとして企画した新規事業がいよいよ始動します。それが、平成15年2月15日から、東京足立区の足立区生涯学習センターにおいて、実施する「足立区 放送とシナリオ講座」です。その内容は、以下のようなものです。

- 2月15日〔第1日〕 市川森一基調講演「テレビ・ラジオ番組とシナリオ」
- 2月22日〔第2日〕 竹内日出男講師「ラジオドラマとシナリオ」(ラジオドラマの基礎知識)
- 3月1日〔第3日〕 東多江子講師「テレビドラマとシナリオ」(連続テレビドラマと単発ドラマ)
- 3月8日〔第4日〕 奥山侑伸講師「バラエティー番組の現場から」(バラエティー番組にも脚本がある。バラエティーの裏側)
- 3月15日〔第5日〕 毛利恒之講師「ラジオドキュメンタリー」(創作の秘密・私の場合)
- 3月22日〔第6日〕 南川泰三講師「テレビドキュメンタリーとワイドショー」(ワイドショーは何を伝えているのか。メディアリテラシーについて)

(第1日は大講堂200名を対象、第2日以降は40名を対象にした教室で実施)

この6回の講座は、現在のテレビ・ラジオ界の様子が少なからず理解でき、ものを書く意欲や、考え方、書き方を学ぶことを目的としています。社団法人日本放送作家協会では、この講座を基本に、さまざまなアレンジで各地方の団体に講座を提供・実施する用意が整っています。協会員の皆様のご協力を得て、こうした事業を積極的に展開していきます。お問い合わせは、企画事業委員会、[info@hosakkvo.jp](mailto:info@hosakkvo.jp) まで。

ラジオの会

日本放送作家協会は「ラジオの会」の活動を後援しています

## 「ラジオドラマウィーク」開催のお知らせ

日時：2003年4月1日(火)～5日(土) 各日午後1時～4時30分ごろの予定

於：放送ライブラリー 横浜市中区日本大通11 Tel 045-222-2828

これまで「放送ライブラリー」を会場として、過去の優れたドラマ番組の試聴会を開いてきましたが、今年はそれを集中的なイベントにまとめ、懐かしの連続ドラマから高レベルの名作までを取り混ぜて聴きます。解説つきです。詳細決定しだい放作協のホームページでもお知らせしますが、「放送ライブラリー」のサイト(<http://www.bpcj.or.jp>)からも広報される予定です。

「ラジオの会」はすでに約40年の歴史をもち、ラジオドラマやドキュメンタリーなど音声メディアで制作される作品の質を向上させるため、私たち脚本家の有志が首都圏の放送局のスタッフやOBとともに盛り上げてきた団体です。会員数は現在約120名。全員が年会費¥3000を出し合い、NHK、民放の枠にとられない様々な活動の基礎資金に当てています。過去の活動の一端を挙げれば、その時々に関わってきた優れた番組の試聴会、海外の放送局訪問や関係者との交流などなど。'96～'98年の3年間にわたって全国をのべ9地域に分けて実施した「全国オーディオ作品制作セミナー」も記憶に新しいところで、ベテラン講師の実作指導を受けた各地の若手スタッフや新人脚本家たちが、その後、目ざましい活躍を見せるようになりました。また、年に一度の総会と同時開催される懇親会は、会員相互の情報交換と親睦の場として、若い会員の皆さんにも喜ばれています。さて、2003年の主な計画としては、①3月(日時未定)に総会開催。引き続き、懇親会、②横浜の「放送ライブラリー」を会場にした「ラジオドラマウィーク」。③その他、放送局内で行う話題番組の試聴(随時)。(因みに、昨年暮れにはNHK制作の国際コンクール「イタリア賞」受賞作品を聴きました) ④「第2次オーディオ作品制作セミナー」の実現へ。(目下、財団法人放送文化基金に資金助成を申請中)など。日本放送作家協会は「ラジオの会」の活動を後援しています。

全国の会員・海外在住の会員、地球上どこにいても  
ネットでつなげる放作協のホームページ <http://www.hosakkyo.jp>  
定期的に更新しています。ぜひ、アクセスしてみてください。  
みなさまの手で、面白く有益なホームページに育てたいものです！

**コラム・エッセイ、問題提起 なんでも原稿大募集！**

ホームページのコラム欄では、協会員のみなさまから、常時寄稿をお待ちしています。サイトに掲載されているテーマのほか、今年はテレビ放送開始50周年ですので、「テレビの功罪」、「放送メディアの問題点」などのテーマを歓迎します。また、放送に限らず、現在考えていること、体験談、旅のエッセイ、ちょっといい話、おすすめの場所や店の紹介、テレビ・映画評、書評、時事エッセイ等々……関心をお持ちの問題について原稿をお寄せください。

尚、サイトを通じて皆様の声を寄稿される場合、Eメールにテキスト形式かWORD形式のいずれかのファイルを添付してお送り下さい。フロッピーでの郵送、また、手書き原稿をFAXや郵送でも受け付けます。できるだけ1編1000字以内をお願いします。連載も結構です。

\*現在は運営予算の関係上、原稿謝礼はお支払いできません。ご理解の上、ご協力をお願いします。

**みなさんのホームページとリンク！**

すでにご自身のホームページを開設されている会員のみなさま、放作協のホームページと相互リンクしませんか？ 放作協のサイトは原則としてリンクフリーです。当サイトと相互リンクを希望される場合、事務局にメールでURLをお知らせ下さい。

**「私の告知板」もご利用ください！**

放作協のホームページには有料告知ページがあります。イベント、出版情報、演劇公演の案内等々……会員のみなさまのPRにご活用ください。(一件3000円)。協会の運営費用に充当させていただきます。ご協力をお願いします。詳細は事務局までお問い合わせください。

ホームページは放作協の事務局でもご覧になれます。近くまでいらっしゃったら、六本木の事務局までお立ち寄り下さい。ホームページに関するお問い合わせは事務局までお電話、またはメールで承ります。

放作協のメールアドレスは、[info@hosakkyo.jp](mailto:info@hosakkyo.jp) に統一されました。

\*併用していた[LE005444@nifty.com](mailto:LE005444@nifty.com)は閉鎖されました。

企画・編集／広報・出版委員会（五十音順）

井上美保子、奥山侑伸（長）、さらだたまこ（副）、花輪如一、福岡秀広、藤森いずみ（副）

（今号編集担当 井上 さらだ 藤森）